

【ねがいはましては】

平成31年1月25日
第339号

KYOWA SCHOOL

「Warm our hearts, everyone」

新年を迎え、久しぶりにのんびりとユーチューブに聴き入っていました。すると歌詞つきの歌が流れてきました。優しいタッチの曲に……。その歌詞に惹かれました。おそらく今までにも聞いたことのある曲だったのだと思うのですが、英語だけでは歌詞まではなかなか把握できません。

曲の名前は「If we Hold On Together」ダイアナロスさんの歌です。今でも現役で活躍されています。

その歌詞はすべて素晴らしいものです。ネット上では多くの方々が訳詞をなさっていました。英語の訳は、その方々の個性が現れるもの、「へー、こんな訳になってしまうのか。」と、感心させられます。

私なりに易しく読み取れて「うーん」とうならされるところを抜粋してみます。

Don't lose your way (自分の道を失わないで)

Don't throw it away (人生を投げ出さないで) (あなたが過ごしてきた人生を投げ出すようなことはしないで)

Live believing (信じて生きるのよ)

Hold to the truth in your heart (あなたの真なる想いを、貫くのよ)

Dreams see us through to forever (夢は、いつまでも、私たちを見届けてくれる)

Seek out a star (成功を、追い求めるのよ)

Hold on to the end (最後まで、頑張るのよ)

Warm our hearts, everyone (心を温めましょう、皆で……)

かなり長い詩なのですが、今の子どもたちに贈る言葉として相応しいものを感じられたところを抜粋してみました。

これは英語の詩です。子どもたちにとっての英語とは「教科」、すなわち「評価」です。目の前の方と意思の疎通をはかる為の大切な言語なのですが、会話ができるようになって嬉しいという実感より先に「評価」が出てきてしまいます。

昨年暮れに、久しぶりに教え子のひとりが訪ねてきました。彼女は某大学の英語専攻、そして第二外国語が仏語、そんな彼女が英語教育の現状に異議を唱えていました。「今の英語は文法優先で……私が海外へ行ったときには、現地の方のひとりが make の過去形を maked (本来は made) と発音していたんです。でも、しっかり通じるんです。」

たしかにスペルからすると、日本の中学生からすれば「えー、何？」といった感じでしょう。テストならバツ……。つまり0点です。これでいいのと思われがちですが、日本でも同じこと。いつのことでしたか、「わたし、ぜんぜんできます。」などと会話が飛び交っていました。傍らにいた大学生が「それ、使い方がちがうよ。ぜんぜんは、ぜんぜんできないのよに否定の内容のときに使ったりするものだと思うよ。」といった内容……。あっそうか、と、間違えて使ってもけろっとしています。そうなんです。これが大切なのです。間違いを気にしない姿勢を普段の生活の中でも使っているのです。

いよいよ中学生生活に入ろうとしている小学6年生の子たちからすると、「英語か……。いい点取れるかな？」といったところ、入る以前からすでに心構えがガチガチになっていると思うのです。もっとリラックス……。

日本の教育は減点方式、以前の【ねがいはましては】にも書かせていただいたことがあるのですが、100点を頂点として、そこから間違えた部分を差し引いていく……。つまりスタートが満点からのスタートです。一箇所も間違えがない状態がベストです。ですから、英語を学び始めた子どもたちのほとんどが、目の前に外人さんがいて、しゃべろうとしてもなかなかしゃべれない。私の英語どこか狂ってない？ 間違えて使ってない？……。

すべてに優先して「どうしよう、どうしよう……。 」が先に出来ます。これをお読みになっている方の中学、高校時代を思い出してみてください。ほとんどの方が今でも英語で話せますかと問われたら……。希にペラペラと英語に堪能な方がいたりすると、留学や長期ホームステイ経験者であったり……。つまり間違い大歓迎をたっぷり味わう時間があつたからこそその英語なのです。

まずはスタートが0点、そこから少しずつですが加点していく。登ろうのぼろうとする気持ちを育ててあげること。そんな環境を子どもたちにプレゼントしてあげなければ、きっと英語嫌いな子どもたちはなくならないと思います。

小学校入ってすぐから、国語の時間に先生に当てられて、「……さん、続きを読んでください。」などと言われようものなら、冷や汗を流しながら細かい声でボソボソと読み、「もう少し大きな声で……。」と、言われ、なかなか出ない声に、読み間違えが出れば周りから冷やかしの「ヤジ」が飛び、「もう金輪際、声なんて出してやるものか。」と、心は奈落の底へと突き落とされます。こんな想いを一度でも経験すれば、勉強は嫌いになって当たり前です。

さて、英語を勉強する前にやっておくことがありますよね。温かい、美しい日本語をしっかりとこころにしまっておくことです。私たちは日本人です。幸せを感じることでできる、おもいやりを感じることでできる日本語をたっぷり味わいましょう。そして先ほど掲げました英語のように、英語をあたたかく迎え入れることでできるような、英文に出会いましょう。 Warm our hearts, everyone こころを温めよう、皆で……。